

森林資源学

担当教員： 狩山 俊悟

履修年次・区分： 1～4年（共通—教養—環境と生活）

授業のテーマ： 森林資源、絶滅危惧植物、外来植物、繁殖戦略、生物多様性など、植物の生態学的、分類学的な基礎知識を習得することによって植物を取り巻く現状と課題について学ぶ。また樹木への理解を深めるため、大学周辺の公園と博物館で、樹木の観察並びに標本作成の手順や整理方法について学ぶ。

この日の授業内容： 植物分類学の基礎知識



倉敷市立自然史博物館から来て下さる狩山先生のこの講義では、公園で採集した植物の標本作りや、実際の森林見学、博物館見学を通して身近な自然を学びます。もちろん、実習だけではなく座学も重要です。

「何か一つでもいい、この分類なら詳しい、というものをもっているといいですよ」と紹介して下さったのは、岡山県と広島県のタンポポについて。カンサイタンポポは芦田川を境に分布が途切れること、広島県では黄色いタンポポよりもシロバナタンポポが多いこと、外来種は総苞外片（花の下の緑色の部分）が反り返っていることなどを解説してくださいました。

(2017年2月取材)